大浦小学校

Ｎｏ．７

０７．９．１４

**辞書引き学習**

　最近，子どもたちの国語力が落ちていると言われています。算数でも，文章題の意味を良く理解できずに間違ってしまう子どもも少なからずいます。また，先日の新聞では，「文部科学省がすべての教科を通じて言語力を高める方針」という記事を報じていました。

　そこで，大浦小学校では，２学期から積極的に国語辞典を学習で活用する「辞書引き学習」を取り入れることになりました。従来，学校では，「国語辞典の引き方」の単元や，国語で言葉調べをするときに国語辞典を使用していました。それを，すべての教科，様々な生活場面で，辞書引きに取り組もうという試みです。すでに何クラスかで実施していますが，国語はもちろん，算数や社会などいろいろな教科で，辞書を自発的に引く子どもが増えてきました。また，給食時間や休み時間などにも，速さを競うゲーム感覚で辞書引きを楽しんでいます。

　学校での取り組みとしては，

①言葉を引くたびに，付箋紙を貼る。

　②ポイントカードに辞書を引いた回数を記録する。

　③引いた回数ごとに，賞状もらう（１００回，２００回，５００回，１０００回・・・）。

　などで，子どもたちの頑張りを励ましています。

　辞書引き学習の効果としては

①「答え」を探す「面白さ」に目覚める。

　②好きなことに「集中して取り組む経験」をする。

　③「自分で考え，答えを導く力」が鍛えられる。

　④「抜群の学習意欲」を引き出せる。

　⑤「日本語」を使いこなす力は，学力にも直結する。

　　　　　（算数などの文章題でもつまずかないために）

　などがあげられます。

　〈国語辞典の使い方〉

　①自分専用の「国語辞典」を持つ。（初めは小学生用の国語辞典がよい）

　　・愛着がわき，辞書にふれる回数が増える。

　　・他人の辞書よりも自分の辞書の方が使いやすい。

　　・継続して使おうとする意欲を持たせることができる。

　②「言葉の収録数」が多い辞書を選ぶ。（１万５千語以上）

　　・できるだけ新しい辞書を使う（発行から10年以内のものを）

　　・読んで楽しいかも大きなポイント

　③引いた言葉に付箋紙を貼っていく。

　　・付箋紙が増えることが「がんばりの勲章」になる。

　　・枚数が増えて，辞書がだんだん増えていくことで，満足感が高まる。

　④ケースとカバーを外し，常に机の上に置いておく。

・道具は使い込んでこそ，その用を果たす。何度も何度も辞書を引き，辞書をなめるように読む。書き込みをしながら，辞書を使いつぶす。

* 小学生用の『国語辞典』については，学校を通して購入することができます。希望者には申込用紙を配布しています。
* 本屋さんで，小学生用の国語辞典を購入されてもかまいません。特に会社の指定はありません。
* ６年生については，すでに２学期に入っているので，新たに購入する場合は，中学校で使える辞典がいいでしょう。

写　真

写　真

言葉を引いたら付箋紙を貼ります　　　　　　　　　　　　ドンドン引くぞ

写　真

写　真

こんなにたくさんの言葉を引きました　　　　　　　　　　クラスみんなで頑張っています